

自転車施策の取組状況について



京都府自転車活用推進計画について

京都府総合計画

誰もが未来に夢や希望を持てる「あたたかい京都づくり」を進めていきます。

将来構想	基本計画
(1)人と地域の絆を大切に共生の京都府	○誰もが親しみ夢が広がるスポーツ ○文化力による未来づくり ○産業の創出・成長・発展と継承
(2)文化の力を継承し新たな価値を創造する京都府	○交流機会を創出する観光 ○しなやかで災害に強い地域
(3)豊かな産業と交流を創造する京都府	○犯罪や事故のない暮らし ○脱炭素社会へのチャレンジ
(4)環境と共生し安心・安全が実感できる京都府	○成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり ○もうひとつの京都の推進と地域連携



一人ひとりの目的に合わせて
自転車を楽しく活用し、安心・安全、
快適なサイクル環境を実現

誰もが自転車の楽しさや便利さを実感できる環境の実現

つかう

- ・自転車は身近に利用できる乗り物で、利便性、機動性に優れており、健康に良く、環境にやさしいというメリットがあります。
- ・京都府の魅力発信、暮らしの向上、賑わい創出、地域活性、健康増進、災害対応など、様々な場面において、自転車を活用し、多くの人が自転車の楽しさや快適さを実感できる取組を進めます。

誰もが安全で快適に利用できる自転車環境の実現

つくる

- ・自転車を利活用する機会が増える中、歩行者の安全を確保し、自転車を利用する誰もが安全・快適に自転車を利用できる環境整備を進めます。
- ・また、自転車は将来の都市交通を担う重要な手段の一つとして捉え、公共交通と自転車の連携強化を図り、地域のニーズに応じた環境整備を進めます。

みんながルールを守り、お互いが安心して利用できる自転車環境の実現

まもる

- ・自転車を利用する人は子どもから高齢者まで幅広く、その運動能力や利用実態は様々です。また、最近では外国人の利用者の増加や、新たなモビリティが登場しています。
- ・一人ひとりがルールを守り、お互いが安全に安心して自転車を利用できるよう、広報啓発や指導・取締りの徹底、利用者の実態に応じた安全教育を進めます。

主な施策の取組について

つかう

淀川リバーサイドサイクルラインの整備推進

- ▶大阪・関西万博の機運を高めるとともに、自転車を活用した広域的な周遊による地域の活性化に向けて、大阪府・大阪市・堺市とともに広域的なサイクルルート環境整備を実施
- ▶万博会場の「夢洲」と京都八幡の「さくらであい館」を結ぶ淀川リバーサイドサイクルラインの整備を推進



矢羽根・自転車ピクトの設置
(淀川リバーサイドサイクルライン)



フットサインの設置
(淀川リバーサイドサイクルライン)

ナショナルサイクルルート(NCR) を目指した取組

- ▶ナショナルサイクルルートの指定によるさらなる地域振興を目指して、ルート設定に向けた検討を開始

「Ride with KYOTO 推進会議」の取組

- ▶府内サイクリング環境の向上や、自転車の利活用促進による地域活性化・観光振興・健康増進を図ることを目的として設立された官民連携プラットフォーム
- ▶鬼の伝承スポットを巡りながら京都1周制覇を目指す期間型イベント「鬼の京都×京都1周サイクルチャレンジ2024」を開催
- ▶HPのリニューアルを実施中 (R7.4公開予定)



鬼の京都×京都1周
サイクルチャレンジ

ツール・ド×京都丹波

- ▶気軽に走れる初級コースから、上級者をも唸らせる高難易度コースまで、京都丹波サイクルルートを巡る期間型イベント「ツール・ド×京都丹波」を開催
- ▶自転車YouTuber と巡るスペシャル 1 Dayイベントを開催



広域的なサイクルルート網を形成



自転車YouTuber と巡る！
ツール・ド×京都丹波

主な施策の取組について

つくる

市町村自転車活用推進計画の策定促進

- ▶ 全国の動向や計画に基づく道路整備について周知し、計画策定の呼びかけを継続
- ▶ 府において、自転車ネットワーク路線の検討を実施中

大規模自転車道の整備及び環境改善

- ▶ 田井大垣自転車道線の未接続区間の整備等を実施中
- ▶ 加悦岩滝自転車道線では舗装修繕、照明設置を実施中



市町村計画策定に向けた取組
(市町村道路事業会議)



未接続区間の整備
(田井大垣自転車道線)

まもる

自転車安全利用五則の活用等による効果的な広報啓発 危険・悪質な運転者への対応

- ▶ 毎月の自転車安全利用推進日等に交通機動隊の「Be-Unit（自転車取締小隊）」と警察署が、自転車安全利用五則を始めとする交通ルールを周知するための啓発活動を実施



モビリティ対策室と自転車取締小隊
(通称「Be-Unit」) の設置
(京都府警察本部)



舗装修繕と路面標示設置
(加悦岩滝自転車道線)

学校等における交通安全教育の実施

- ▶ 中学生・高校生・大学生に対して、自転車安全利用推進員講習を開催し、学校内における自転車安全利用のリーダー的存在を育成



自転車安全利用推進員講習
(洛西高校)

自転車運転者講習制度の着実な運用

自動車運転者に対する交通安全教育の実施

- ▶ 改正法の周知を図り、自転車の安全利用を促進するため、新たなチラシを作成するなど、街頭啓発や交通安全教室等を実施



道交法改正
に伴う対象違反
の周知



現計画の振り返り 目標指標「つかう」

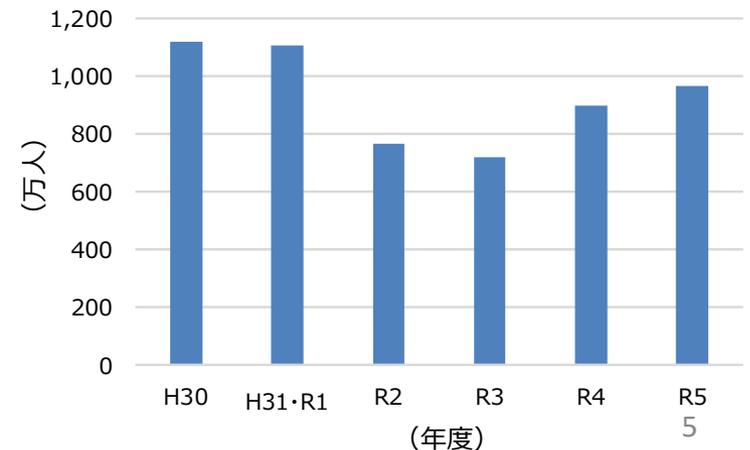
指標		目標値	目標年度	策定時現況値	現況値	現況値の定義
モデルルート上にある観光施設の観光入込客数		1,200万人	2027年	900万人 (2022年)	970万人 (2023年) ↑	主要31施設（淀川三川さくらであい館、舞鶴赤れんがパーク、けいはんな記念公園等）の総数
移動距離5km未満の代表交通手段分担率	自転車	30%	2030年	23% (2010年)	22% (2021年) ↓	パーソントリップ調査による
	車	20%	2030年	32% (2010年)	31% (2021年) ↓	
大規模自転車道（京都八幡木津自転車道線）の自転車交通量		1,600台/12時間	2027年	1,120台/12時間 (2021年)	(※)	代表3箇所の平均値

【現状】

- 観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響下にあった前回調査から回復。
- 代表交通手段分担率は、自転車・車ともに減少。鉄道、バスなどが増加。

(※)淀川リバーサイドサイクルラインの整備後に実施予定

モデルルート上にある観光施設（主要31施設）の観光入込客数





現計画の振り返り 目標指標「つくる」

指標	目標値	目標年度	策定時現況値	現況値	現況値の定義
市町村自転車活用推進計画及び自転車ネットワーク計画の策定促進	5市町村	2027年度	2市町村 (2022年度)	2市町村 (2023年度) →	策定市町村数
自転車通行空間の整備	800km	2027年度	627km (2022年度)	668km (2023年度) ↑	京都府及び市町村管理道路における自転車道、自転車専用通行帯、車道混在、普通自転車通行指定、自転車歩行者専用道路の整備延長
モデルルートの整備延長	600km	2027年度	467km (2022年度)	490km (2023年度) ↑	モデルルートにおける誘導ライン等の整備延長
道の駅等へのサイクルサポートステーション ^{※4} 設置数	26箇所	2027年度	13箇所 (2022年度)	13箇所 (2023年度) →	モデルルート上に整備済みのサイクルサポートステーション数

【現状】

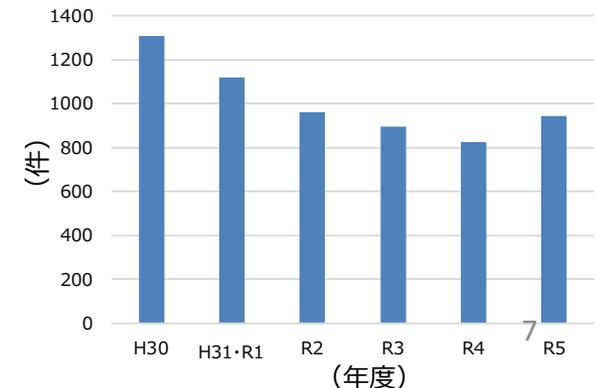
- 自転車通行空間の整備は、乙訓、丹後地域において国の交付金を活用し、「車道混在」の整備形態を主として整備を実施
- モデルルートの整備は、「京都やましろ茶いくるライン」等において誘導ラインの整備を実施



現計画の振り返り 目標指標「まもる」

指標	目標値	目標年度	策定時現況値	現況値	現況値の定義
年間の自転車事故発生件数	750件以下	2025年	825件 (2022年)	944件 (2023年) ↑	交通統計（京都府警察本部）による
自転車同乗幼児（6才未満）のヘルメット着用率	100%	2025年度	77.2% (2022年度)	81.7% (2024年度) ↑	京都府内で6歳未満の幼児を自転車に同乗させている者のうち、乗車用ヘルメットを着用させている者の割合
自転車利用者等の自転車損害保険等への加入率	100%	2025年度	93.0% (2022年度)	93.9% (2023年度) ↑	京都府内で自転車を利用する者のうち自転車損害保険等に加入している者の割合
自転車安全利用推進員の委嘱	毎年500人以上	2025年度	639人 (2022年)	514人 (2024年) ↑	自転車安全利用推進員に委嘱した人数

府内の自転車事故発生件数



【現状】

- 自転車事故発生件数は、減少傾向が続いていたが、前年から増加。
- 自転車同乗幼児(6才未満)のヘルメット着用率は増加。
- 自転車損害保険等の加入率は増加。